



●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

- 本体の脱落の原因となりますので、下記事項をお守りください。
 - ・本体の吊込みは、必ず2人作業で行ってください。
 - ・本体の吊込みを行う場合は、本体の丁番カップが縦枠の丁番座に「カチャッ」と音がするまではめ込んでください。
 - ・丁番カップ・丁番座・吊ヒンジは指定の固定ねじで、ガタツキがないように固定してください。
 - ・吊ヒンジと吊車の固定は、全ての丁番カップを丁番座に固定した後に行ってください。
 - ・建付け調整後、固定ねじが必ず締まっていることを確認し、本体をゆすって外れないことを確認してください。

■取付け上のおお願い

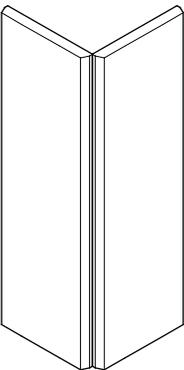
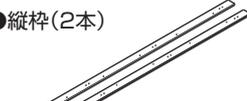
- 本製品は上吊り方式のため、梁又はまぐさで重量をうけますので、本体重量に耐える断面の梁又はまぐさをご使用ください。
 - ・梁又はまぐさが弱いと本体が下がって開閉できなくなるおそれがあります。
【参考】<本体重量(1P)約30kg×本体数の重さ>が梁又はまぐさにかかります。
 - ・梁又はまぐさが軽量鉄骨の場合は、ねじ保持力が弱いため直接固定しないでください。必ず枠と軽量鉄骨の間に木枠を入れて取付けてください。
- 枠を取付ける際、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 造作材を取付けるときは、必ず接着剤(現場手配)を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤(現場手配)を塗布してください。
- 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」又はノンホルムタイプを使用してください。
- 造作材・建具枠の下地材は、必ず乾燥剤(含水率20%以下)を使用してください。湿潤材は使用しないでください。
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから施工してください。
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 本製品の組立て・施工時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。)
- 枠の組立て後、ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損の原因になります。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
- 丁番が3個以上の本体は、最初に中間の丁番を取付け、次に端部の丁番を取付けてください。又、本体を支えている手を離す場合は、必ず丁番を2個以上取付けてからにしてください。
- 運搬・加工の際は、キズ付けないように取扱ってください。
- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず施工前にお買求め店までご連絡ください。(施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。)
- 本体の把手に重量物をぶらさげないでください。把手が壊れ落下するおそれがあります。

■保管上のおお願い

- 本製品はソリ・ねじれ防止のため、下記場所に置いたり、保管しないでください。
 - ・直射日光の当たる場所
 - ・昼夜などで温湿度差が激しい場所
 - ・湿気の多い場所
- 本製品を長期間保管する場合は、寝かせた状態で保管してください。立て置きでの保管はソリ・ねじれなどの原因となります。

■部品・部材の明細

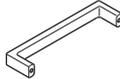
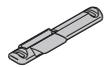
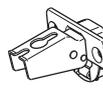
■部材明細

本体	3方枠
●クローゼット本体	●上枠
	
	●上レール
	
	●縦枠(2本)
	
	●位置出し定規(2本)
	

■枠部品セット

部品名称	吊車	丁番座	皿小ねじ M4×50 (枠組立て用)	トラスタッピンねじ φ4×60 (上枠躯体取付け用)	皿タッピンねじ φ4×50 頭部シート色塗装 (縦枠躯体取付け用)
呼称					
0723	1	4	4	6(予備含む)	12
1223・1623	2	8	4	8(予備含む)	12

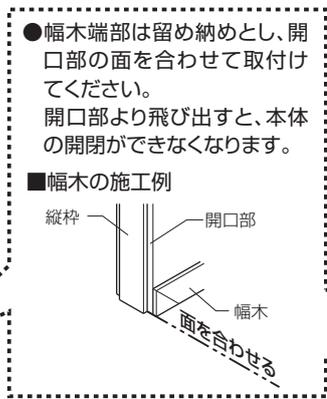
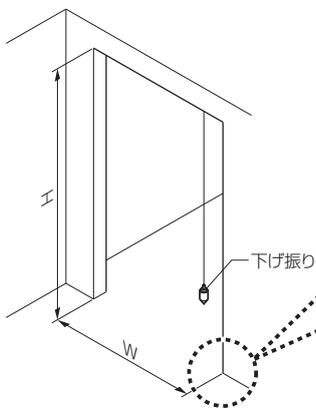
■本体部品セット

部品名称	把手	トラス小ねじ M4×35 (把手取付け用)	丁番カップ	皿タッピンねじ φ4×16 (丁番カップ・吊ビンジ 取付け用)
呼称				
0723・1223・1623	1	2	4	10
部品名称	召し合わせ部品 ※2枚建て納まりのとき は使用しません。	トラスタッピンねじφ3.5×16 (召し合わせ部品取付け用) ※2枚建て納まりのとき は使用しません。	吊ビンジ	戸当たり
呼称				
0723・1223・1623	2	4	1	2

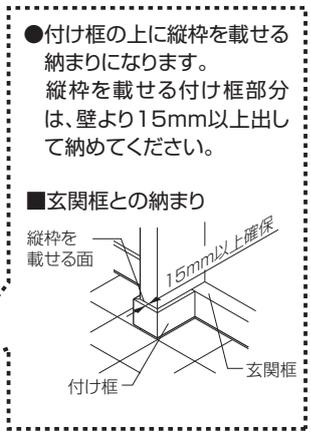
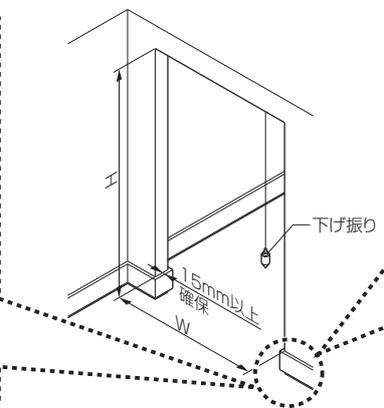
■開口部の準備

- 上吊り方式のため、上枠は十分強度のある梁又はまぐさに取付けてください。
【参考】<本体重量(1P)約30kg×本体数の重さ>
が梁又はまぐさにかかります。
- 開口部の水平・垂直を水準器・下げ振りなどで確認してください。

【室内設置の場合】

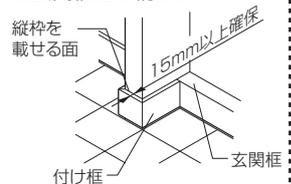


【玄関設置の場合】

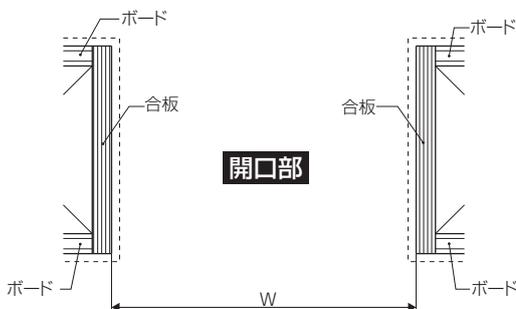


- 付け框の上に縦枠を載せる納まりになります。縦枠を載せる付け框部分は、壁より15mm以上出して納めてください。

■玄関框との納まり

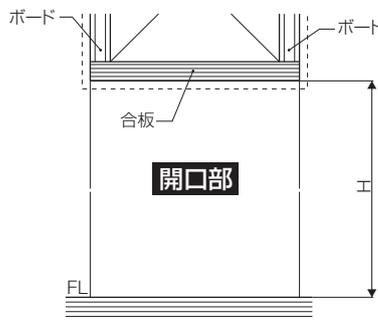


●横断面



●縦断面

【室内設置の場合】



【玄関設置の場合】



(単位:mm)

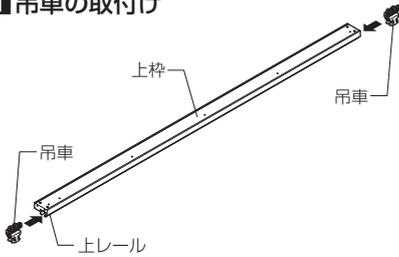
呼称	W	H
0724	734	2400
1224	1183	2400
1624	1643	2400

お願い

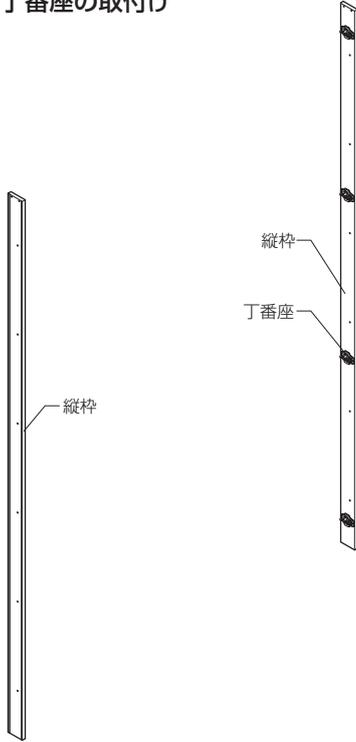
- ※枠が本体の内側にひかえる仕様のため、開口部の内法寸法の精度を十分に確保する必要があります。開口寸法精度が不十分なまま施工した場合は、すき間の不均一・本体の開閉ができなくなるおそれがあります。
- ※仕上り面(上図点線部)にクロス張りができるレベルの下地処理をする必要があります。枠と開口部壁面のすき間が不均一になるおそれがあります。

■組立て順序

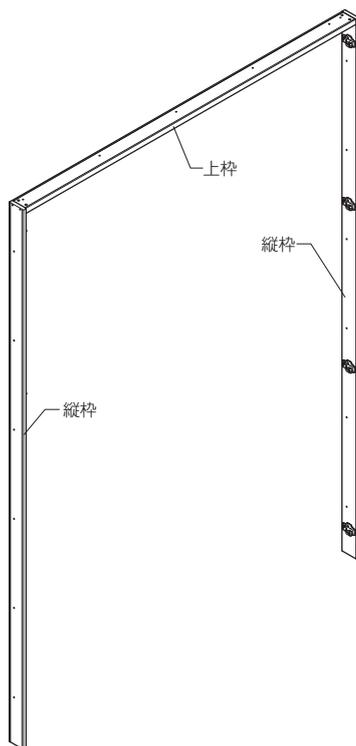
1 吊車の取付け



2 丁番座の取付け



3 枠の組立て

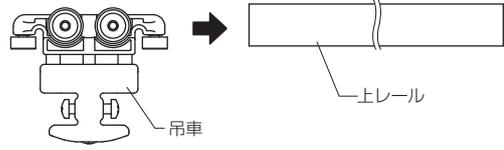


■組立て詳細

1 吊車の取付け

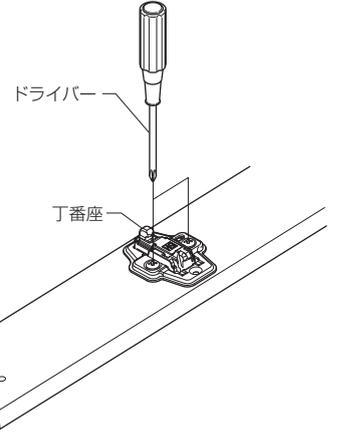
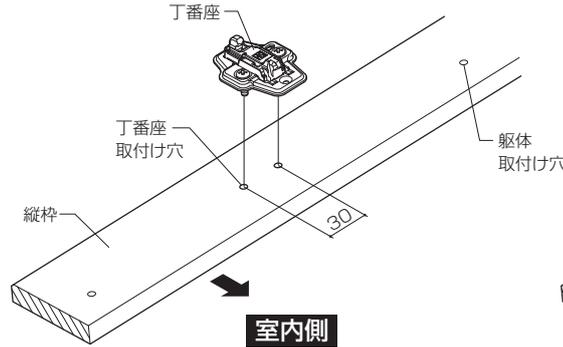
●吊車を上レールの端部から挿入してください。

お願い
※枠組立て前に上レールに吊車を挿入してください。吊車を入れ忘れると本体の吊込みができません。

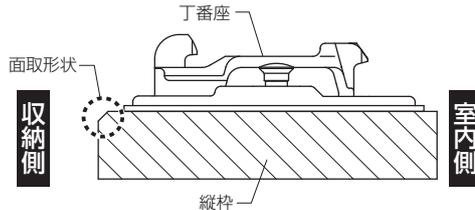


2 丁番座の取付け

●縦枠に丁番座を取付けます。
(取付けねじは丁番座に取付済みです。)



■丁番座の取付け方向



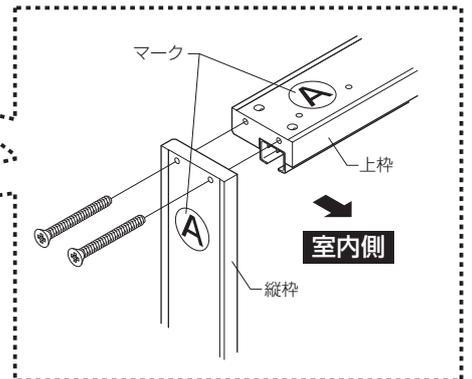
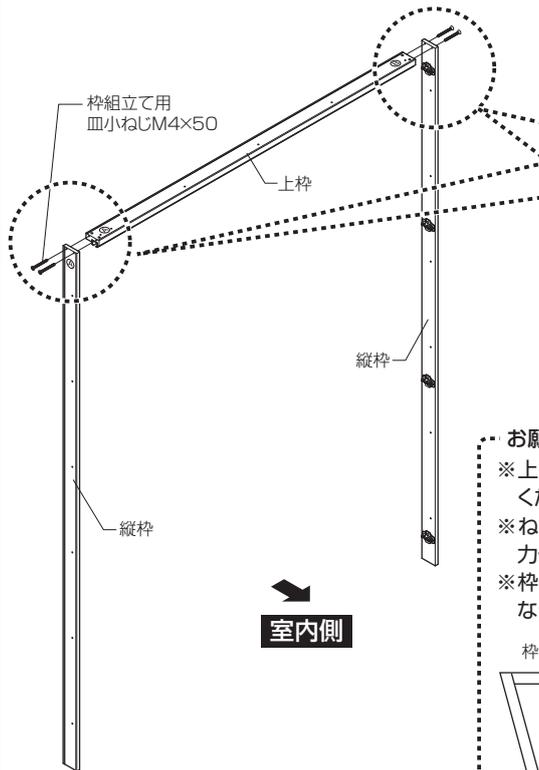
お願い
※丁番座の向きは左図を参照し、間違いないようにしてください。本体の吊込みができなくなります。

▲注意

●縦枠に丁番座を取付ける際は、丁番座と縦枠にガタツキ・すき間がないように取付けてください。本体脱落の原因となります。

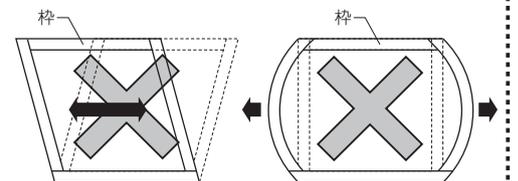
3 枠の組立て

●下図のように各部材を組合せ、同梱のねじで固定します。

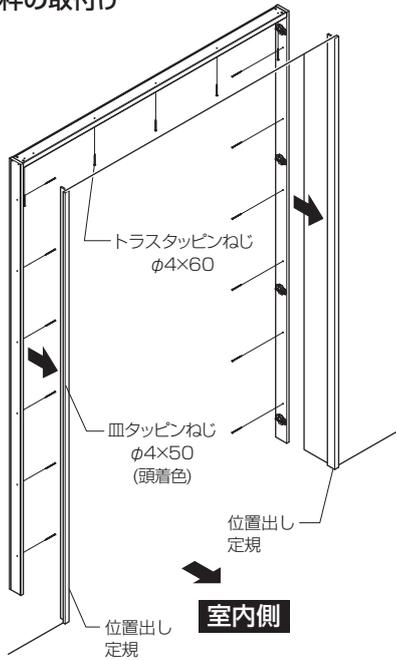


お願い

※上枠と縦枠のマーク(A、B)を合わせて組立ててください。
※ねじは、たたき込まないようにしてください。保持力低下などの原因となります。
※枠組立て後、揺らす・引張るなどの無理な力を加えないでください。破損の原因となります。

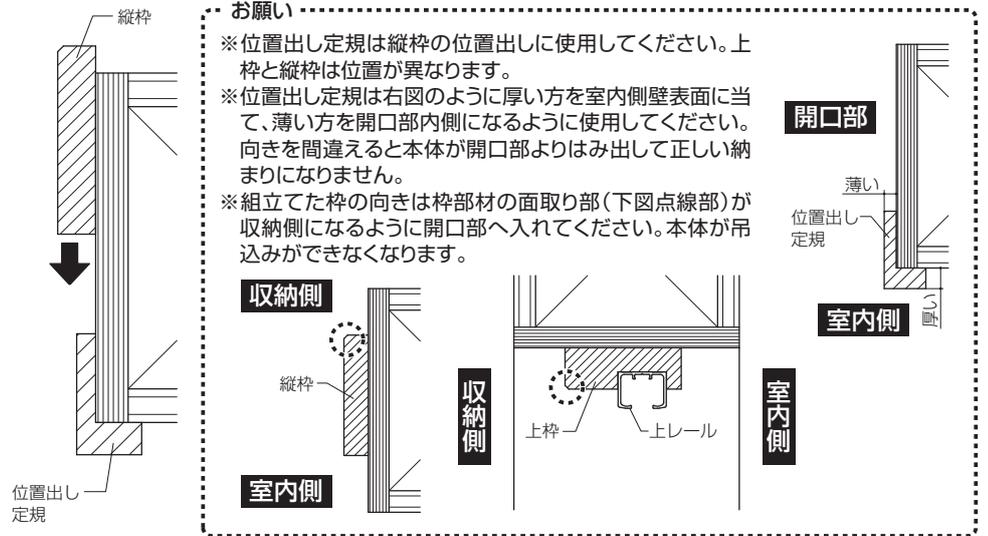


4 枠の取付け



4 枠の取付け

- ①位置出し定規をかくし釘・ねじなど(現場手配)を使用して、開口部に仮止めします。
※位置出し定規は、枠の取付け後に取外します。
- ②組立てた枠を開口部に入れて、位置出し定規に突き当てます。



お願い

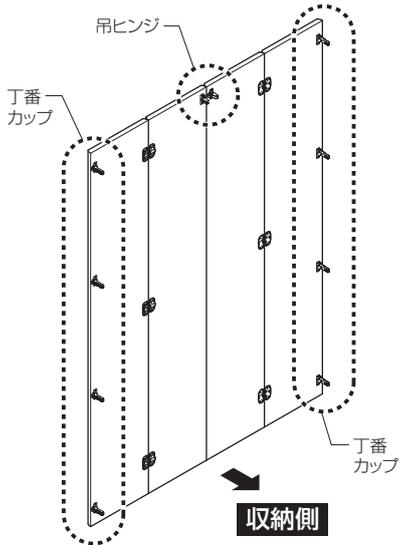
- ※位置出し定規は縦枠の位置出しに使用してください。上枠と縦枠は位置が異なります。
- ※位置出し定規は右図のように厚い方を室内側壁表面に当て、薄い方を開口部内側になるように使用してください。向きを間違えると本体が開口部よりはみ出して正しい納まりになりません。
- ※組立てた枠の向きは枠部材の面取り部(下図点線部)が収納側になるように開口部へ入れてください。本体が吊込みができなくなります。

収納側

室内側

- ③組立てた枠の位置(下図参照)を確認し、上枠・縦枠を開口部に固定します。
その際、レールも合わせて固定します。

5 丁番カップの取付け



- ※皿タップピンねじの頭と縦枠が面一になるまで、ねじを回してください。



- ④枠を固定した後に位置出し定規を取外してください。

5 丁番カップの取付け

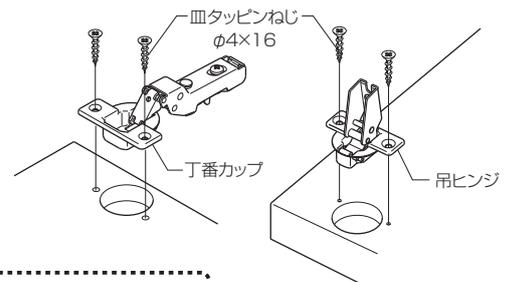
- 丁番カップ・吊ヒンジを、同梱のねじで本体に取付けてください。

▲注意

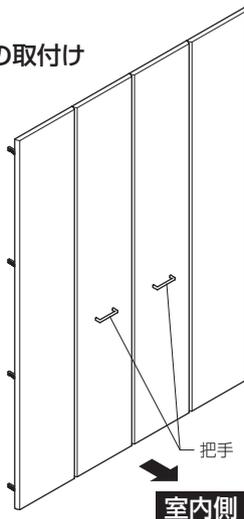
- 丁番カップ・吊ヒンジは指定のねじでガタツキがないように固定してください。ねじの締め忘れ・ゆるみなどは本体の落下の原因となります。

お願い

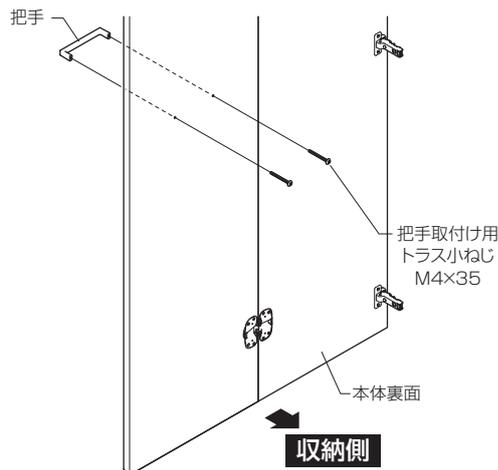
- ※ねじが曲がらないように、必ず同梱のねじで本体に取付けてください。ねじが曲がると本体を吊込みできなくなりますので、ご注意ください。



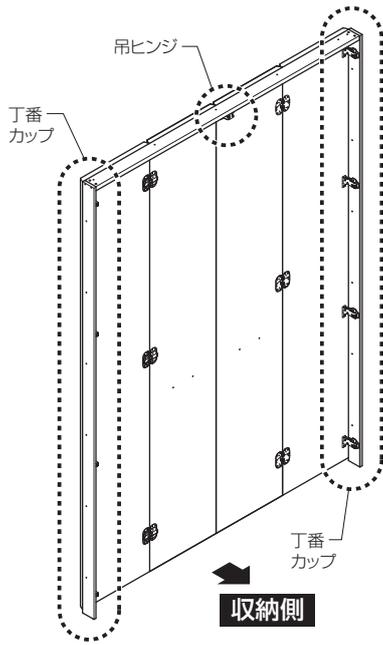
6 把手の取付け



6 把手の取付け

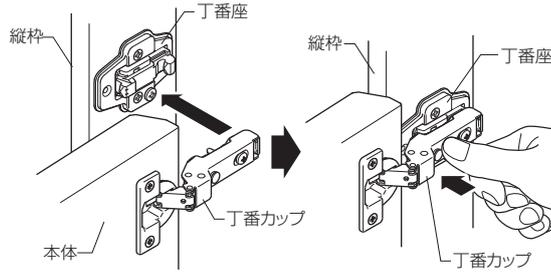


7 本体の吊込み



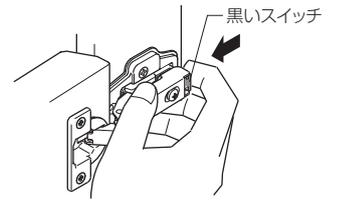
7 本体の吊込み

① 丁番カップを縦枠の丁番座にセットし、上から押し込んでください。



※扉の取外し方法

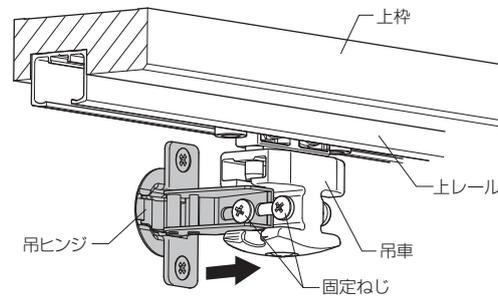
取外す場合は、先端のスイッチ(黒色)を押し込むと外れます。



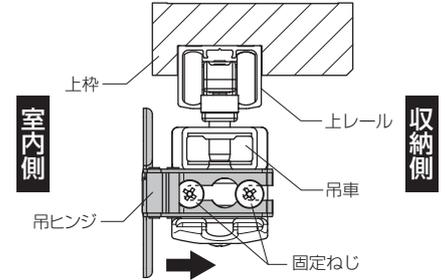
お願い
 ※最初に中間の丁番を取付けてから、上下端部の丁番を取付けてください。
 ※本体を支えている手を離す場合は、必ず丁番を2個以上取付けてからにしてください。

▲注意
 ●本体の吊込みは、必ず2人作業で行ってください。本体の脱落の原因となります。
 ●本体の吊込みを行う場合は、丁番カップが丁番座に「カチャッ」と音がするまではめ込んでください。本体の脱落の原因となります。

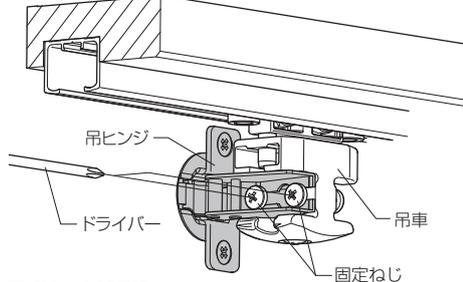
② 吊ヒンジを吊車に固定ねじ(吊車に取付済)で取付けてください。



③ 吊車をスライドさせて吊ヒンジに固定ねじを差込み、吊ヒンジを奥に押し込んで固定ねじが長穴にくるようにしてください。



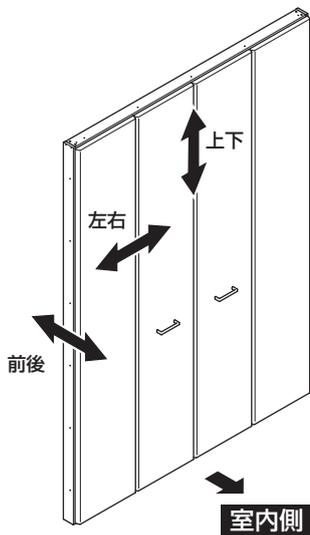
④ 固定ねじを締めて吊車と吊ヒンジを固定してください。



お願い
 ※本体吊込み後、3回程度開閉を行い、吊ヒンジと吊車の固定ねじにゆれみ・ガタツキがなく、取付いているか必ず確認してください。

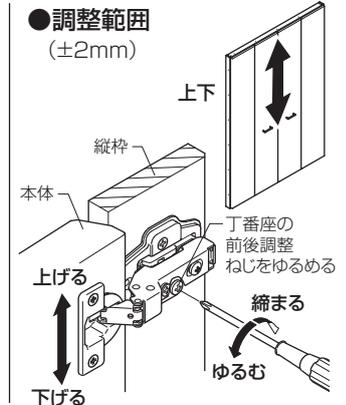
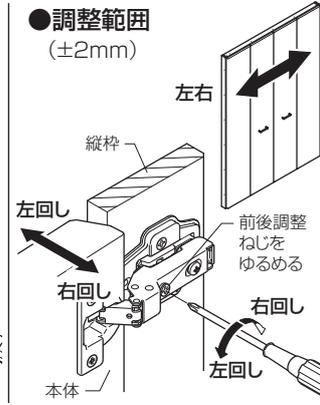
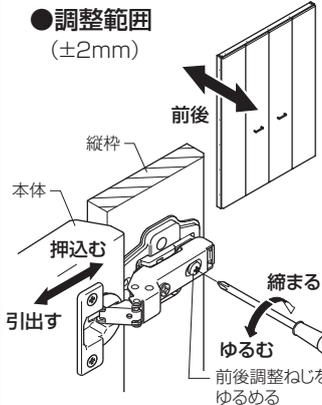
▲注意
 ●全ての丁番カップを丁番座に固定した後に吊ヒンジと吊車の固定を行ってください。吊車・吊ヒンジが本体重量に耐えられずに脱落する原因となります。

8 建付け調整



8 建付け調整

① 丁番カップを調整する。調整ねじをゆるめて、丁番カップ止め位置を調整してください。



② 吊ヒンジを調整する。固定ねじをゆるめて、吊ヒンジ止め位置を調整してください。

